

## 生活を総合的に捉える家庭科教育における 「高齢者の生活と福祉」学習内容のあり方（2）

～高等学校における「介護保険制度」の授業実践およびその検討～

飯村 しのぶ（藤女子大学 人間生活学部 人間生活学科）

岡崎 由佳子（藤女子大学 人間生活学部 人間生活学科）

楠木 伊津美（藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科）

高瀬 淳（岡山大学大学院 教育研究科）

坪田 山香子（藤女子大学 人間生活学部 人間生活学科）

田中 宏実（藤女子大学 人間生活学部 人間生活学科）

高橋 カツ子（藤女子大学 人間生活学部 人間生活学科）

本誌前号で報告した家庭科教育における「高齢者の生活と福祉」学習内容のあり方をもとに、「介護保険制度と高齢者のQOLの向上」という題材を設定して、高等学校「家庭基礎」で2時間の授業を実践した。この授業の目標は、介護保険制度の利用によって高齢者の生活がどのように改善されるかを理解すること、さらに高齢者がより「自分らしい生き方」すなわちQOLの向上を実現することの大切さに気づき、高齢者を尊重する態度の育成に結びつけることにある。本報告では、授業実践の概要と実践結果の課題について述べた。

**キーワード：**家庭科、高齢者、福祉、QOL、介護保険制度、授業実践

### 1. はじめに

高等学校における介護保険制度の学習は、公民科と家庭科の両教科に共通する内容である。本誌前号（第3巻第1号）では、高等学校における介護保険制度に関する学習を公民科で学ぶ場合と家庭科で学ぶ場合とを比較し、それぞれにおいて学習目的とそれに向けての学習内容の展開の仕方が逆であることを指摘したり、さらにそれをもとに「家庭基礎」で「介護保険制度と高齢者のQOLの向上」の題材を設定し、2時間分の学習指導案（細案）を提示した。

本報告では、この家庭科学習指導案（細案）をもとに高等学校において授業実践した結果を報告するとともに、その課題について検討した。

### 2. 授業実践の概要

#### （1）授業実践の方法

授業は、札幌市内の市立高等学校A校において、2008年8月25日から9月10日までの任意の8日間に、1年生6クラス（1クラス40人）計240人（うち男子138人、女子102人）について、1時間（45分）の授業を2時間ずつ実践した。A校は1年生8クラス編成で、このうち7クラスは普通科、1クラスが理数系の特別クラスで、生徒のおおかたは大学進学を希望するいわゆる進学校である。授業実践は、1年生の普通科5クラスと特別クラス1クラスでおこなった。授業実践者は本研究のメンバーのひとり（大学教員）で、のべ12回の授業を実施した。

他に授業の際のビデオ撮影（2台）と、生徒たちのグループ討議の際のICレコーダ操作のために教室内に補助者2～3名が同席した。

授業実践の日程は次のとおりで、括弧内の数字は、授業時数である。

- 8月25日(月)：2組(1/2)、8組(1/2)
- 8月26日(火)：7組(1/2)
- 8月27日(水)：4組(1/2)、6組(1/2)、2組(2/2)
- 8月28日(木)：1組(1/2)
- 9月1日(月)：8組(2/2)、6組(2/2)
- 9月2日(火)：7組(2/2)
- 9月4日(木)：1組(2/2)
- 9月10日(水)：4組(2/2)

使用した教科書は、大修館書店の「新家庭基礎」(家庭046)である。

生徒は、今回の授業実践までに高齢社会の現状、すなわち高齢者人口の割合、わが国における高齢化のスピードの速さ、後期高齢者の増加などについての学習を一応終了していることを前提とした。授業は2時間ともにグループ形態(1グループ6~7名、1クラス6グループ)でおこなった。

## (2) 学習指導案

単元、単元の目標、学習計画、本時の学習目標等は表-1に示すとおりである。今回の授業のねらいは、次の3つにある。1つは、高齢者の身体的状況のみならず、その生活実態を家族構成、時間の過ごし方、家庭経済、衣食住生活状況などに対応させて総合的に捉えること、2つにはこうした高齢者の生活を支えるしくみとしての介護保険制度の内容を高齢者の生活要求と結びつけて理解すること、3つには、高齢者にとってより「自分らしい生き方」の実現が高齢者のQOLの向上に結びつくことに気づき、高齢者を尊重する態度の育成につなげることである。

授業実践にあたっては、本誌前号に掲載した家庭科学学習指導案(細案)を再検討し修正を加えた(表-2、-3参照)。その理由の1つは、前号に提示した指導案(細案)は2時間続きの授業として作成したものであったが、今回の授業実践にあたっては高校側の時間割に合わせて1時間(45分授業)で区切り、2時間分に修正する必要があったためである。第2の理由は、高齢者側の日常生活や意識の変化・満足感といったことを高

表-1 学習計画・学習目標

|  |         |
|--|---------|
| 1. 単元 第2章 ともに生きる III 高齢者と生きる   |         |
| 大修館書店 新家庭基礎 ~生活の創造をめざして~   |         |
| 2. 単元の目標   |         |
| 1) 生涯発達の視点で高齢期を位置づけ、高齢者の心身の変化の特徴を理解する。   |         |
| 2) わが国の高齢社会の特徴と高齢者の暮らしに関心をもち、高齢者を肯定的にとらえられる。   |         |
| 3) 高齢者の生活を支えるしくみとしての介護保険制度及び家族・地域の果たす役割が重要であることを認識する。  |         |
| 3. 単元の学習計画   |         |
| 1) 日本の高齢社会の特徴と高齢者の暮らし  | 1時間     |
| 2) 介護保険制度と高齢者のQOLの向上   | 2時間(本時) |
| 3) 高齢者の心身の変化の特徴と生きがい   | 2時間     |
| 4. 本時の題材 介護保険制度と高齢者のQOLの向上   |         |
| 5. 本時の目標   |         |
| 高齢者の生活を支えるしくみとしての介護保険制度の内容を高齢者の生活実態や生活要求と結びつけて理解することを通して、高齢者にとってより「自分らしい生き方」(QOLの向上)を実現することの大切さを認識し、高齢者を尊重する態度を育成する。 |         |
| 6. 本時における評価の観点   |         |
| 梅子おばあさんの事例を通して、介護保険制度のしくみやサービスの内容を理解するとともに、家族や地域と高齢者の生活との関わりについて認識する。  |         |
| 1) 関心・意欲・態度  |         |
| ①高齢者にとってより「自分らしい生き方」を実現することの大切さに気づく。   |         |
| ②高齢者の生活や福祉に関心をもち、高齢者を肯定的にとらえられる。   |         |
| 2) 思考・判断   |         |
| ①介護保険制度の利用をとおして、高齢者を支えるために社会および家族や地域の果たす役割が重要であることを認識する。   |         |
| 3) 知識・理解   |         |
| ①介護保険制度の概要やしくみとおもな福祉サービスについて理解する。  |         |
| ②梅子おばあさんがどのように「自分らしくいきたい」と考えているかを理解し、QOLの向上につなげて理解することができる。  |         |

表-2 学習指導案「介護保険制度と高齢者のQOLの向上」（1時間目）

本時の指導計画

| 指導過程 | 学習内容                               | 学習活動   | 備考  | 時間     |
|------|------------------------------------|--|---|--------|
|      | 自己紹介                               | 藤女子大学人間生活学部の教員とスタッフの紹介   | (生徒はグループ形態)   | 5      |
| 導入   | 前時の復習                              | 「高齢者と生きる」でこれまで学習した内容を思い出す。<br>・高齢社会の現状について、思い出す。<br>高齢者人口の割合、日本の高齢化のスピード、後期高齢者の増加 など   | 発問<br>1・2人の生徒に聞く。   | 2      |
|      | 本時の学習                              | 本時の学習内容<br>1. 介護保険制度のしくみや主なサービス内容について理解する。<br>2. 介護サービスの利用を「梅子おばあさん」の事例にあてはめ、具体的に理解する。<br>3. 「梅子おばあさん」の生活は、サービスによりどのように改善されるか、考える。<br>介護保険制度→梅子おばあさんの事例→おばあさんが困っていること→改善策は？  | 教科書のp.67、QOL（生活の質）参照<br>教科書のp.63、～65頁の学習であることを確認。<br>短冊により、本時の流れを知る | 3      |
| 展開   | 1. 高齢者を支えるしくみとしての「介護保険制度」のしくみと目的   | 介護保険制度とは？<br>1) 成立と制度の目的 (資料-1)<br>2000年4月施行<br>目的：①高齢社会の現状を背景に、高齢者の自立した生活を支える<br>②介護負担を社会全体で分けあい孤立した家族を開放（介護の社会化）<br>2006年4月改正施行<br>改正目的：①自立高齢者を増やす予防重視<br>②介護サービスの質の向上<br>2) 保険料と受給の対象者<br>40歳以上の国民が保険料を負担（高齢者は年金から徴収）<br>65歳以上（原則）で要介護状態にある人がサービスを受給<br>3) 利用料<br>サービス利用の際に、費用の10%を自己負担   | 教科書p.63 右下図18<br>(高齢者の主な介護者)  | 5      |
|      | 2. 梅子おばあさんと家族の生活状況や気持ちを理解する        | 事例から具体的に考えてみよう<br>1) 「梅子おばあさんの縁側日記」〈前半〉を読む (資料-2)<br>2) 「梅子おばあさん」と家族の生活状況を知る (資料-3)<br>A: 身体的状況<br>……最近自宅の玄関で転倒し、左腕を骨折したが完治。<br>トイレ、外出などでは動作が不安定な状況。<br>B: 日常生活の状況<br>更衣はなんとか自分で可能<br>家族は、息子(57歳)と二人暮らし。日中は息子は仕事で不在。<br>収入は年金(月約6万円)と息子の収入による。<br>C: おばあさんの希望<br>できるだけ自宅で、安全に安心して自分らしく生活したい。<br>D: 息子の希望<br>日中自分が介護できず、母親が自宅で安全に暮らせる方法がないか考えている。<br>E: 住宅の状況<br>別紙資料で確認する。 | 教科書p.58、図4、p.59図8を参照<br>(ここでは省略)                                    | 3<br>4 |
| 閉    | 3. 梅子おばあさんがかかえる生活の困難に気づく           | 「梅子おばあさん」は、どのような生活上の困難を抱えているか？<br>〈例〉・段差や階段が不便<br>・食事の支度や後片づけがおっくう<br>・昼間ひとりの時が多く不安<br>・他者とのコミュニケーション不足<br>・入浴はどうする？ 買い物はどうする？ など  | 発問<br>1・2人の生徒に意見を聞く。  | 2      |
|      | 4. 梅子おばあさんがかかえる生活の困難をあげ、その改善方法を考える | 「梅子おばあさん」が困っていることと、その改善方法をグループで考える。<br>①困っていることを各自2つあげ、ブルー付箋に書く<br>②その改善策を、それぞれピンク付箋2枚に書く<br>③各自が書いた付箋を、ブルーとピンクごとに模造紙1/2にKJ法でまとめる。   | (模造紙のまとめ方サンプル準備)<br>(模造紙にクラス・グループ記入)<br>(付箋に名前記入)                   | 15     |
| まとめ  | 5. まとめと発表                          | 1) 1～2グループが代表して、模造紙を黒板に張り、まとめた内容を説明する。<br>2) 発表しないグループは、それ以外の内容を追加していく。  | グループの1人が発表<br>他グループからも意見が出る   | 5      |
|      | 次時予告                               | 介護保険制度によるサービスの利用によって、梅子おばあさんの生活はどう改善するか。   |   | 1      |

表-3 学習指導案「介護保険制度と高齢者の QOL の向上」(2 時間目)

| 本時の指導計画  |  |   |  |   |  |   |
|----------|--|---|--|---|--|---|
| 指導過程     | 学習内容   | 学習活動  | 備考   | 時間  |  |   |
| 導入       | 前時の復習<br>本時の学習   | 前時に学習した内容を思い出す。<br>・介護保険制度の概要について学習した。<br>・梅子おばあさんの事例をもとに、困っていることと改善策を考えた。<br>本時の学習内容<br>①介護保険制度利用により、梅子おばあさんの生活はどう改善されたか。<br>②介護サービスの利用によって、梅子おばあさんは満足したか。<br>③梅子おばあさんの「自分らしい生き方」(QOL の向上) の実現を考える。<br>介護認定→ケア・プランの作成→ケア・プラン実施→おばあさんの不満<br>→不満の解決・ケアプランの変更→「自分らしい生き方」の実現                   | 短冊により、本時の流れを知る   | 2   |  |   |
| 展開       | 1. 介護保険制度によるサービスの利用の流れを知る                                  | 介護保険制度利用の流れについて知る (資料-4)<br>①介護保険制度の利用を申請 (息子が市町村の窓口へ行く)<br>②訪問調査に来る<br>③介護認定審査会「梅子おばあさん」は要介護1に認定された<br>④通知<br>ケアプランの作成   | 教科書 p.63<br>(ケア・マネジャー)   | 2   |  |   |
|          | 2. ケア・プランの内容   | ケア・プランの内容を知る (資料-5)<br>前時にグループでまとめた内容とケアプランの内容を照らし合わせる<br>・住宅改修…家の中での移動の安全のため手すり設置、段差をスロープにする (経済的負担:20万円以内で、うち1割は自己負担)<br>・福祉用具のレンタル…歩行時のつえ<br>・デイサービスの利用…日中ひとりを解消、他者とのコミュニケーション確保<br>入浴サービスの利用  | 模造紙を貼る<br>短冊を貼る<br>教科書 p.63 表 22<br>(おもな福祉サービス)<br>資料集 p.39      | 5   |  |   |
|          | 3. ケアプランの実施とおばあさんの不満                                       | 「梅子おばあさんの縁側日記」(後半)を読む (前掲、資料-2)<br>1) 最初はサービスに満足し、安心して生活できることを喜んだ。<br>2) おばあさんには不満が生じていた。<br>3) おばあさんの不満は何か? 考えてみよう。(縁側日記から読みとる)<br>「他人と一緒に風呂はいやだ」<br>4) おばあさんの不満をどのように考えるか (グループで話し合う)<br>〈例〉・これ以上はおばあさんのわがままだ、我慢してよ!<br>・我慢させるのはかわいそう。改善方法を誰かに相談しよう!<br>* サービス提供だけでなく、本人の満足を確認することが大切である。 | 発問 1・2人の生徒に聞く。<br>短冊を貼る<br>プリント「みんなで考えよう」配布 (回収)<br>結果をグループごとに発表 | 2<br>3<br>10  |  |   |
|          | 4. おばあさんの不満解決とケアプランの変更                                     | おばあさんの不満解決とケアプランの変更<br>ケアプランの変更<br>①風呂場に手すりを設置 (自宅での入浴が可能)<br>②訪問介護サービス (ホームヘルパー) を利用 (入浴介助、ひとりで過ごしている間の見守り)  | 短冊を貼る<br>変更内容を板書<br>資料-5に記入する                                    | 5   |  |   |
| 開        | 5. 地域における高齢者福祉サービス   | 「地域福祉サービス」があることを知る<br>・配食サービス (炊事・後かたづけの不安を解消)…1H1食 (原則 65 歳以上の一人暮らしで日常の調理が困難な者を対象とする) (利用料は 500~600 円で、自治体による補助あり)<br>・地域の高齢者生きがい対策など  | 教科書 p.64 表 21  | 3   |  |   |
|          | 6. 梅子おばあさんの生活で、改善されたこと                                     | 介護保険制度や地域福祉サービスの利用を通して、梅子おばあさんの生活はどのように改善されたか、まとめる。<br>〈改善されたこと〉 (資料-6)<br>①住宅改修により日常生活の安全が確保された。<br>②精神的に楽になった (本人・家族ともに)<br>③コミュニケーションの機会が増えた。  | 板書の内容をプリントに記入する。   | 5   |  |   |
| まとめ      | 7. まとめ   | 梅子おばあさん…<br><table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td>富し男が支える＝家族が支える<br/>介護保険制度が支える＝社会が支える<br/>配食サービス・生きがい対策＝地域が支える</td> </tr> </table><br>梅子おばあさんの「自宅で自分らしく生活したい」希望実現＝QOL の向上          | {  | 富し男が支える＝家族が支える<br>介護保険制度が支える＝社会が支える<br>配食サービス・生きがい対策＝地域が支える |  | 2 |
|          | {  | 富し男が支える＝家族が支える<br>介護保険制度が支える＝社会が支える<br>配食サービス・生きがい対策＝地域が支える   |  |   |  |   |
| ふり返りレポート | 「介護保険制度と高齢者の QOL の向上」の 2 時間の授業全体をふり返って、理解したこと、気づいたことをまとめる。 |   | 5  |   |  |   |
| 次時予告     | 高齢者の心身の特徴や生きがい・社会参加について学習する。                               |   |  | 1   |  |   |

校生により理解しやすく、また関心を持ちやすくするために新たに「梅子おばあさんの縁側日記」（プリント資料-2）を追加したためである。

### （3）授業実践の内容

前掲表-2、-3をもとに、授業の流れについて説明する。1時間目は、最初に導入として本時の流れを短冊を使って説明した。生徒はこの段階では、介護保険制度という言葉を目にしたことはあるが、それがどのような内容で具体的には何を目的とするものかについてはほとんど知識はもっていない状況であった。

展開の1「高齢者を支えるしくみとしての『介護保険制度』の仕組みと目的」では、教科書内容（p.63、高齢者の主な介護者）を参照し、高齢者の介護が配偶者（妻）及び嫁中心の実態にあることに注意をむけた。これら介護者の負担を軽減し、社会全体でその負担を分け合おうとするのが介護保険制度の目的の1つであることを説明した。さらに介護保険制度の内容について、プリント資料-1を使って説明した。制度成立の経緯、保険料負担者と受給の対象者、利用料などが主な内容である。

展開の2「事例から具体的に考えてみよう」では、高校生が高齢者の生活状況及び日常生活上どのような困難をかかえているのか、また高齢者がどのような気持ちで毎日を過ごしているのかできるだけ身近に理解できるようにするために作成した「梅子おばあさん」の事例を紹介した（前掲プリント資料-2「梅子おばあさんの縁側日記」およびプリント資料-3「梅子おばあさんの生活状況」（本誌前号掲載の参考資料-1））。

今回授業実践した高校では高齢者と同居している生徒は少なく、したがって高校生が身近に高齢者と触れ合う場面も少ない状況と判断されたので、まず、プリ

ント資料-2「梅子おばあさんの縁側日記（前半）」を生徒2～3人に交代で読んでもらった。

次に、プリント資料-3（本誌前号を参照のこと）では、梅子おばあさんと家族の生活状況として、おばあさんの身体的状況、家族構成や経済を含めた日常生活の状況、日中の時間の過ごし方など高齢者の生活を総合的な視点で捉えてその特徴や問題点を理解し、それに対してどのような介護保険制度によるサービスが利用できるかを考える材料を示した。この資料中にはおばあさんの希望のみならず、同居している息子をとおして家族が高齢者に対してどのような気持ちを持って接しているかを推察できるよう息子の希望も含めた。さらに介護保険制度によるサービス利用の主なポイントにもなっている住宅改修の必要性に気づくように住宅の状況についても説明した。生徒はこの段階で梅子おばあさんの家族構成、時間の過ごし方、衣食住の生活状況とともに、どのような生活困難をかかえているかなどについて関心を向けていた。

展開の3「梅子おばあさんがかかえる困難に気づく」では、梅子おばあさんがどのような生活上の困難をかかえているか、1～2人の生徒に発問し、続くグループでの検討に向けて考えるポイントを示した。生徒の回答としては、「玄関や階段の段差」と「食事の支度や後片づけ」の2点があげられた。これをもとに、さらに展開の4で、グループごとに検討することを伝えた。

展開の4「梅子おばあさんが困っていることと、その改善方法をグループで考える」は、本時の中心である。1グループの人数は6～7人で男女混合の構成である。グループでの作業は次のように進めた。①各自がそれぞれ梅子おばあさんが困っていると思われることを自由に2つずつ考え、付箋（ブルー色）に記す。②次にそれに対する改善策を付箋（ピンク色）に記す。

#### 資料-1 介護保険制度とは（介護の社会化）

##### 1) 成立と制度の目的

###### 2000年4月施行

- 目的：①高齢社会の現状を背景に、高齢者の自立した生活を支える。  
②介護負担を社会全体で分け合い、孤立した家族を解放する。

###### 2006年4月改正施行

- 改正目的：①自立高齢者を増やす予防重視  
②介護サービスの質の向上

##### 2) 保険料と受給の対象者

- ① 40歳以上の国民が保険料を負担（高齢者は年金から徴収）する。  
② 65歳以上（原則）で要介護状態にある人がサービスを受給する。

##### 3) 利用料

サービス利用の際に、費用の10%を自己負担する。

※資料Noは、前掲表-2、-3の指導案内にある番号をさす。

## 資料一 2 梅子おばあさんの縁側日記

<前半>

2007年11月12日(月曜日) 天候：朝がたは曇っていたが、午後からみぞれ

大気のせい、リュウマチで足が痛い。それでも今日は久しぶりに近くのスーパーに買い物に行ってきた。今日は息子の好きなおでんを作った。富士男は夜9時過ぎに帰宅し、いつものように私に声をかけてくれた。夕食はめったに一緒に食べられず先にふとんに入ったが、富士男も喜んで食べているようであった。入浴後8時に寝る。

<省略>

2008年3月21日(金曜日) 天候：朝は晴れて少し暖か、午後から雪がちらつく

久しぶりに日記を書く。3月に入ってまもなく、朝、新聞を取りに行つて玄関の段差につまずき転んでしまった。息子がすぐ車で救急病院に連れて行ってくれたが、その日のことはあまりおぼえていない。腕を骨折していた。幸い左腕のため2週間程度で退院し、どうにか日常生活は困らずにすんだ。しかし気温が下がると痛みがある。家のこともあまりできず、息子にも迷惑ばかりかけてすまないと思う。トイレや入浴も大変になってきた。この先どうしたらよいか不安だ。

2008年5月7日(水曜日) 天候：くもりのち晴れ

連休中、富士男が家の中を掃除してくれた。今日は午後から仕事を休んで、介護保険の利用を役所に申請に行ってくれた。人様のお世話にはなりたくないと思っていたが、富士男にもこれ以上負担をかけられず、介護保険サービスとやらをお願いしてみるしかないと思う。しかしはじめてのことだからうまくいか不安だ。

<後半>

2008年6月7日(土曜日) 天候：晴れのち曇り

今日は介護保険の認定審査のために、区役所から紹介された人が訪ねてきた。息子と一緒に話をしたり、質問に答えたり、立ったり座ったりの動作をした。自分の生年月日も聞かれたが、それを忘れて言えないところまで私はおぼけてない。少し疲れて昼寝をした。午後3時頃久しぶりに縁側に座って庭の朝顔を眺めた。40年近く暮らしたわが家だから、ここでずっと最後まで暮らしたい。夕食は久しぶりにおでんを作った。いつまで食事の支度ができるか、ふと不安になった。

2008年6月24日(火曜日) 天候：くもり、夕方から小雨

今日、はじめてデイ・サービスセンターに行ってきた。迎いのバスに乗りあちこち回って他の人も乗り込み、15分くらいでセンターに着いた。年寄りばかりだ。みんなでラジオ体操をしたりして過ごし、その後昼食を食べて風呂に入って帰ってきた。はじめてなのでとても疲れた。これから毎週火曜日にはセンターに行くことになった。夜7時すぎに寝る。

2008年7月1日(火曜日) 天候：晴れ、のちにわか雨

センターに行ってきた。だんだん慣れて、話しかける人も何人かできたが、みんなと風呂に入るのはなんだか恥ずかしい気がして、のんびり入れない。やっぱり家の風呂にゆっくり入れたらなあ……と思う。買い物にも最近は一人行けないことが多い。今日は、久しぶりに息子の好きなおでんにした。材料はあまりなかったが、仕事から帰ってゆっくり食事をしている様子だった。この先もつと何もできなくなったらどうしたらいいのだろう。

※資料 No は、前掲表一2、一3の指導案中の番号をさす。

③各人が書き込んだ付箋をまず困っていることについてグループごとに1枚の模造紙にKJ法で整理していく。④次にそれぞれが考えた改善策の付箋を同じ模造紙上に、困っていることと対比できるように貼り、同様にして整理する。生徒達は自分の考えを書いた付箋をもとに他のグループ員との意見のやりとりをしていく。この間15分間ほど机間巡視をしながら進めたが、作業は比較的スムーズにおこなわれた。

展開の5「まとめと発表」では、授業時間とのかね

あいがあり発表は各グループが作成した模造紙を黒板に貼り、1～2グループの代表者にまとめた内容を説明してもらった。表一4は、グループごとにまとめられた「梅子おばあさんが困っていること」及びその「改善策」を例示したものである。このクラスの6グループが困っていることとして共通してあげられたのは、「段差や階段」、「室内の移動・外出の困難」であり、その他に「トイレや入浴の困難」「食事の準備・後片づけ・買い物の不便」、「火の使用に不安」などがあげられた。

表-4 「梅子おばあさんが困っていること」と改善策（例）

| 1年〇組  | 困っていること   | 改善策   |
|-------|---|---|
| Aグループ | 日中、息子が不在で不安である<br>息子以外に手助けしてくれる人がいない<br>段差<br><br>トイレや風呂をひとりですることができるか<br>食事の準備が自分でできるか<br>あまり外出できない、移動に困難                    | 介護の人に助けをもらう<br>足が痛かったら車椅子を使う<br>リフォームして段差をなくす<br>手すりをつける<br>IHヒーターにする                           |
| Bグループ | トイレや入浴が一人では大変<br>息子に負担がかかることを心配<br>日中家に一人が不安<br>他人に世話されるのが不安<br>家の中の段差  | できるだけ親族で世話する<br>ホームヘルパーに頼む<br>息子が退職する<br>階段に手すりなど、バリアフリー<br>家のリフォーム                             |
| Cグループ | 息子に迷惑をかけてしまうこと<br>富士男がちゃんと自立するか<br>富士男不在の時困ったらどうするか<br>玄関の段差<br>階段の上り下り<br>トイレ・入浴が一人では不安<br>家事ができるか不安                         | 富士男は自分でできることはやる<br><br>手すりをつける<br>段差をなくしバリアフリー<br>バリアフリーにする<br>家事のお手伝いを頼む<br>ホームヘルパーにきてもらう      |
| Dグループ | 息子に迷惑をかけていること<br>息子不在の時何かあったら困る<br>介護保険サービスについてよくわからない<br>室内の段差、階段<br><br>炊事・後片付けが自分でできるか不安<br>火の使用に不安                        | ホームヘルパーを雇う<br><br>息子がサービスについてよく説明する<br>手すりをつける<br>段差のないように、2階に行く必要をなくす<br>息子が結婚する<br>ホームヘルパーを雇う |
| Eグループ | 移動が不自由<br>買い物にあまり行けない<br>普段の生活でも不安<br>家の設備に不安<br>玄関の段差<br>作れる料理がおでんに限られる<br>火を使うことに不安<br>昼間ひとり<br>息子の将来について不安<br>息子に迷惑をかけてしまう | 生協の宅配サービスをつかう<br>ホームヘルパーを活用する<br>バリアフリーにする<br><br>富士男に料理を教える<br>オール電化<br><br>結婚                 |
| Fグループ | トイレ・入浴が大変<br>段差・家の中が歩きづらい<br>息子に迷惑をかけてしまう<br>自分の不自由になっていく体に不安を感じる   | バリアフリー<br>車いすにしてスロープ、手すり<br>息子が結婚し嫁が手伝う<br>施設に入る<br>自宅での介護サービスを安心して受ける                          |

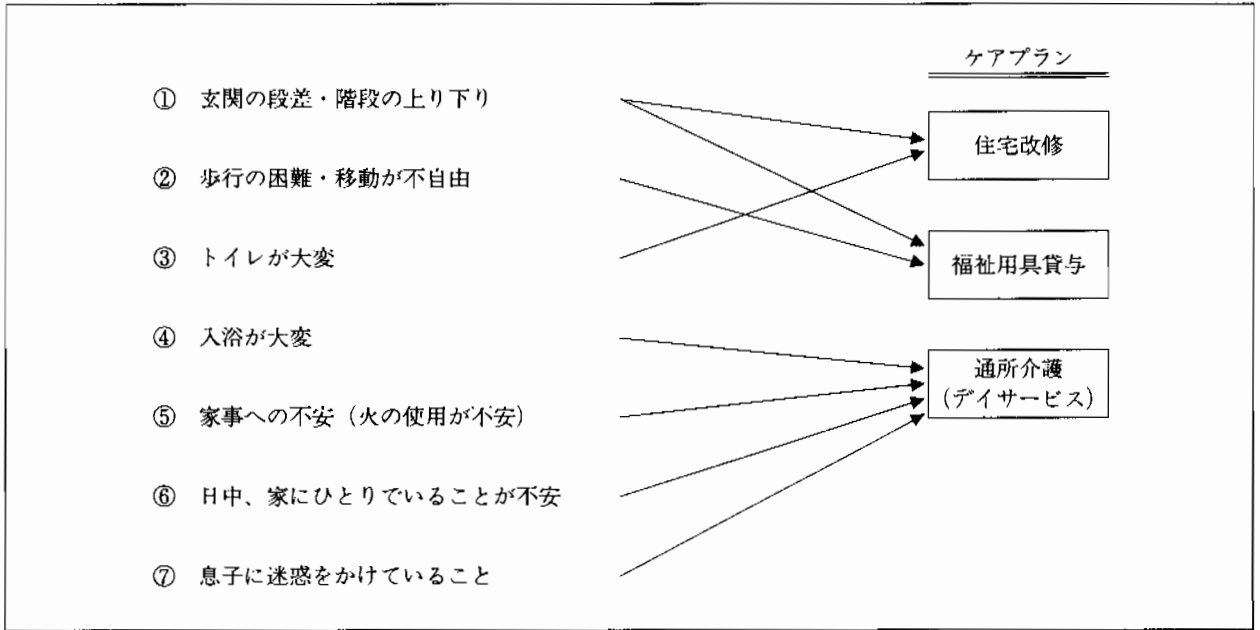
また梅子おばあさんの不安にも注意が向けられ「日中ひとりである不安」「自分の老化や息子の将来についての不安」「息子に迷惑をかけていることへの気がかり」等があげられた。

これらに対する改善策としては、リフォームして「手すりをつける」「段差をなくす」以外に「バリアフリー」「オール電化」「車椅子の利用」「IHヒーター」、「ホームヘルパーを雇う・介護の人に助けをもらう」をどのグループもあげ、「息子の将来への不安」については「息

子が結婚する」こと、またそれによって「嫁が家事や介護を手伝うことができる」といった意見もあった。ここで各グループごとにまとめられた「梅子おばあさんが困っていること」は、2時間目の最初の段階で利用するため、各グループから出された意見とその改善策については授業後模造紙に整理した（表-5）。最後に、次時予告をして1時間目は終了した。

2時間目は、導入段階で前時の学習内容を思い出させ、本時の学習の流れについて短冊を使用して説明し

表-5 梅子おばあさんが、困っていること（まとめ）



た。

展開の1では、「介護保険制度によるサービス利用の流れを知る」ために、プリント資料-4（本誌前号に掲載の参考資料-2を参照のこと）を使って梅子おばあさんが介護保険制度の利用に至るまでの手続きを簡単に紹介した。ここでは介護保険制度によるサービスを利用するには介護認定を受けなければならないことを理解し、さらに梅子おばあさんは「要介護1」に認定されたことを前提としてこれからの内容を考えていくことが理解された。

展開の2「ケアプランの内容」では、ケア・マネージャーがたてた梅子おばあさんのケアプランの内容をプリント資料-5のように示した。ここでは、1時間目にクラスの各グループでまとめた梅子おばあさんが困っていることをあらかじめ本時開始前に模造紙1枚に整理して作成した表-5の左側半分）を黒板に貼り、それとケアプランの内容を対比できるように、プランを書いた短冊を黒板に張って照らし合わせて確認した。生徒から出された梅子おばあさんが困っていることは、①玄関の段差・階段の上下り、②歩行の困難・移動が不自由、③トイレが大変、④入浴が大変、⑤家事への不安(火の使用が不安)、⑥日中、家に一人でいることが不安、⑦息子に迷惑をかけていること、にまとめられた。

次にこれらに対するケアプランとして示された内容は、住宅改修、福祉用具のレンタル(杖)、デイサービスの利用であったことを説明した。ここで教科書P.65の表を参考にして居宅サービス・施設サービスの名称と内容を確認した。今回のケアプランにおけるデイ

サービスの利用は、梅子おばあさんが日中ひとりでいることの不安を解消し、他者とのコミュニケーションを確保するため、また入浴サービスの利用も同時に可能であるとして提案されたことを説明した。住宅改修については、生徒の意見のなかには「家のリフォーム」「オール電化」など経済的に不可能な改善策もみられたため、介護保険制度の場合住宅改修費用は20万円以内であり、そのうち1割が自己負担といった制限があることを説明した。

展開の3「ケアプランの実施と梅子おばあさんの不満」は、介護保険制度の利用によって高齢者の生活支援をすることが可能になり、それが高齢者の生活を改善する一方、ケアプランの実施によって梅子おばあさんがどのような気持ちでサービスを利用しているのか、あるいは新たな不安や不満が生じていることはないのかについても配慮していくことが必要であることを気づかせる目的である。そこで次に、「梅子おばあさんの縁側日記(後半)」（前掲プリント資料-2）を生徒2~3人に読んでもらった。ケアプランの実施により梅子おばあさんの日常生活は改善されたものの、心の中には「デイサービスで他人と一緒に風呂に入るのはいやだ」という新たな不満が生じたことを生徒達に気づかせる目的である。そこで1~2人の生徒に発問し、「縁側日記(後半)」から梅子おばあさんのどのような不満が読み取れるか意見を発表してもらった。2~3人の生徒からは、梅子おばあさんが「他人と一緒に風呂はいやだ」と思っているとの意見が出されたので、これらの意見をもとに、次にこうした梅子おばあさんの不満についてどのように考えるかを各グループで話



### 資料－5 梅子おばあさんのケアプランの内容

1年 組 氏名

#### 梅子おばあさんのケア・プラン

- ① 住宅の改修 …… 家中での移動の安全確保のため、手すりを設置する。  
玄関の段差をなくし、スロープにする。  
(20万円以内、うち1割は自己負担)
- ② 通所介護 …… 日中ひとりになることへの不安を解消する。  
(デイサービス) 他者とのコミュニケーションも確保される。  
入浴サービスも利用できる。
- ③ 福祉用具貸与 …… 杖をレンタルすることにより、歩行時の安全を確保する。

#### <ケアプランの変更>

---

---

---

※資料 No は、前掲表－2、－3 の指導案中にある番号をさす。

### 資料－6

介護保険制度や地域福祉サービスの利用を通して、梅子おばあさんの生活はどのように改善されたか。

#### <改善されたこと>

1)

---

2)

---

3)

---

※資料 No は、前掲表－2、－3 の指導案中にある番号をさす。

し合ってもらった。その結果については、プリント「みんなで考えよう」を各自に1枚ずつ配布し、自分の意見を記述するとともに、それをもとにグループで交わされた意見についても各自記述し提出してもらった。これによって、自分の考えをまとめることと同時に、グループ内の他者の意見にも耳を傾け、自分と違った

理解や判断もあることに気づくであろうと考えた。つぎに記述した内容について、各グループの1人ずつに簡単に発表してもらった。ほとんどの生徒は、梅子おばあさんの不満が「他人と一緒に風呂はいやだ」ということにあると理解していた。しかしそれに対する生徒達の意見は大多数が、それは「梅子おばあさんのわ

がままである」との評価であった。

展開の4「おばあさんの不満解決とケアプランの変更」では、一度確定したケアプランを見直してもらうことで、梅子おばあさんが自宅で入浴することを可能にするために風呂場に手すりを設置し、デイサービスではなく訪問介護サービス（ホームヘルパー）の利用に変更することによって入浴介助と日中一人で過ごしている時間の見守りもできるようになったことを説明した。自宅で風呂に入りたいとする梅子おばあさんの考えをわがままとして我慢させるのではなく、梅子おばあさんの満足をより高めるためにケアプランを変更することが可能なことを生徒達は理解した。

こうして介護保険制度によるサービスの利用にあたっては、高齢者の身体的状況や衣食住生活状況をサポートするだけでなく、不満や不安を解消していくことが高齢者のQOLの向上に大切であると話してまとめた。

展開の5「地域における高齢者福祉サービス」では、介護保険制度を補完するものとして梅子おばあさんの炊事・あとかたづけの不安を解消するために地域福祉サービスの利用も可能であることを紹介した。自治体によってはサービス内容に若干の相違があるものの、原則として1日1回の配食サービスが利用でき、利用料には経済的な補助があることを説明した。生徒達は、介護保険制度の利用が高齢者の生活状況のすべてを改善するものではなく、こうした地域福祉サービスの利用なども必要であることに気づいた。

展開の6「梅子おばあさんの生活で改善されたこと」を板書し、生徒はそれをプリント資料-6に記入した。

展開の7「まとめ」は、梅子おばあさんの生活を社会が介護保険制度で支え、さらに家族が支え、地域が支えることによっておばあさんの「自宅で自分らしく生活したい」という希望を実現させることがQOLの向上につながったことを確認した。最後に「ふり返りレポート」として、今回実践した2時間の授業全体をふり返って自分が理解したこと、気づいたことを生徒にまとめるよう指示した。

「ふり返りレポート」を回収して授業を終了した。

### 3. 家庭科における「介護保険制度」学習の課題

今回の授業実践では、介護保険制度の内容に関する知識を理解することが学習目標の中心ではなく、高校生が介護保険制度の学習をとおして高齢者の日常生活の困難に気づき、それを社会や家族や地域あるいは自分たちがどのように支えていくことができるかに関心を向けることができたかにある。その気づきがあれば

高齢者の尊厳を守ることの大切さ、高齢者を尊重する態度を身につけることができるのではないだろうか。

しかし、本授業に対する評価の観点のうち介護保険制度に関する「知識・理解」については、定期試験において評価しうるものの、「思考・判断」および「関心・意欲・態度」に関する評価はどのようにするかが課題として残った。この課題については、今後も分析を進めていく予定である。

今回授業を実践したのは、札幌市内の高等学校1校のみであったため、学校の属性が影響していることは十分考えられる。たとえば同じ授業内容を、隣市にある福祉系で学ぶ高校生約10数名を対象に実践した結果と比較すると、梅子おばあさんの不満をどう理解するかについて、明らかに異なる傾向が捉えられた。対象生徒数や高等学校のカリキュラム内容に違いがあるので正確な比較対象にはならないが、梅子おばあさんの「自宅でゆっくりお風呂に入りたい」という希望に対して、前述のようにA校では梅子おばあさんのわがままとして捉えた生徒が大多数であったのに対して、福祉系の高校生ではわがままとしてとらえる生徒は皆無であった。したがって今後はさらに別の高等学校で授業実践しつつ、より敷衍的な結果を導きたい。

### 謝辞

授業実践にあたって、A高等学校の柿澤小百合先生にはご多忙にもかかわらず、受入れ体制の確保から時間割の再編成など、岩崎のどか先生には各クラスへの伝達・指導など多くのご協力とご支援をいただきました。さらに授業実践に協力してくれた生徒の皆さんにもお礼を申し上げます。

### 引用文献

- 1) 飯村しのぶ, 高瀬淳, 田中宏実, 岡崎由佳, 高橋カツ子, 坪田由香子, 水上香苗, 楠木伊津美: 生活を総合的に捉える家庭科教育における「高齢者の生活と福祉」学習内容のありかた—「家庭基礎」と「現代社会」における介護保険制度学習の比較をとおして—, 藤女子大学 QOL 研究所紀要, 第3巻第1号, pp.28-31, 2008年3月。

### 参考文献

- 1) 浅井玲子: 沖縄の高校生が認知する高齢者役割—高齢者に関する学習と役割認知—, 日本家庭科教育学会誌 Vol.50-3, 2007年10月。
- 2) 貴志倫子: 家庭科におけるケアリング教育の概念化—高等学校家庭科の教科書分析を手がかりに—, 福田公子他, 生活実践と結ぶ家庭科教育の発展, pp.141-158, 大学教育出, 2004年8月。

## A study of senior citizen's life and well-being in home economics education (2)

— A focus on the Lesson of “long-term care insurance” at the High School Level —

Shinobu IIMURA (Fuji Women's University)

Yukako OKAZAKI (Fuji Women's University)

Itsumi KUSUNOKI (Fuji Women's University)

Atsushi TAKASE (Okayama University)

Yukako TSUBOTA (Fuji Women's University)

Hiromi TANAKA (Fuji Women's University)

Katsuko TAKAHASHI (Fuji Women's University)

**Key words:** home economics education, senior citizen, well-being, QOL, long-term care insurance system, assessment of the lesson